

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ほっとする、隣同士の笑い顔、共に暮らす、気の合う仲間、住めば都のほととぎす」と、グループホームの名前にちなんだ理念を作り、玄関、ホーム内、事務所に掲示しており、理念の確認と方針を常に意識している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に職員全員で復唱し、理念を意識して、入居者との生活を送るようにしている。また、新しい職員などが入ったとき等は、理念を説明し、ホームの方針を伝え、職員が全員で同じ理念のもとに実践している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の方々に、面会時や訪問時に理念を説明し、ホームの方針を理解してもらい、家族や地域の方々に協力を願うように伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物に出かけた際に、声をかけてもらったり、近所に出かけ話をしたり、野菜などを配ったり、持って来てもらえるような間柄になってきている。利用者が近所の方の家に寄ったり、両替を頼んだりできる間柄となり、近所の方も認知症を理解してくれている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の水路の掃除、地元の小学校や幼稚園との交流を定期的に行ったり、老人会の会長などが気軽に声をかけてくださり、花を摘みに来てくださいと言ってくれるようになっていく。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣に暮らしている家族から、認知症の相談を受けたり、家庭での暮らしなどについて、アドバイス等をしてしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、質の確保、向上を目指し、職員は外部評価での意見を前向きに捉え、勉強会などを開き、職員全員で改善を図れるように取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では実際に困っていることなどを話し、地域での理解が深まるように話しかけたり、意見を交換し合うことで、サービスの向上に活かすようにしている。また、推進会議で話をしたこと等を、勉強会などで職員に話し、実践するための具体案を出し合うようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外の時も、ボランティアに来てもらったり、行事に参加してもらい、情報の交換を行い、サービスの向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度などの研修に出かけ、必要な方には活用できるように支援をしており、現在、活用している方もいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての勉強会を行い、虐待防止のマニュアルを作成し、職員全員で話し合い、事業所での虐待の徹底防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ホームの契約書や重要事項の文書で説明しながら、利用者や家族からの不安、疑問点などを尋ね、納得を得たうえで手続きを行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が日常のサービスに関する意見や不満を職員に話しており、そのことをミーティングや運営推進会議の中で話し合い、本人の思いを家族や職員に伝えている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、家族にホームでの生活の様子と写真を送付し、家族の方に状況を報告している。また、家族には個々に合わせて、金銭管理や健康状態についての報告を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の中で、家族からの意見を出してもらったり、日々の生活の中での家族からの意見などを聞いたときは、苦情の受付に記入し、勉強会などの議題にあげ、サービスの向上に努めている。また、家族の方に、相談窓口の説明を行っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングや勉強会を行い、職員の意見や提案を聞き、働きやすい環境づくりや意欲の向上、質の確保につなげている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態の変化などに応じて、家族とも話し合いを持ち、要望により対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が職員との馴染みの関係が作れるように、職員の異動などは最小限にしている。やむを得ず、職員が交代する場合には、職員全員で話し合い、対応の仕方などを検討し、利用者へのダメージがないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、家族の実情や要望を聞き、現在の必要なサービスについて何が困っているか、何が必要なのかを見極め、対応している。必要に応じては、他のサービスの利用の調整などの声かけをするようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してサービスが利用できるように、ホームに慣れてもらえるよう、お茶を飲みに来てもらったり、家族と一緒に来て話をするなど、本人が安心できる雰囲気になるように、本人や家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ことわざや昔の生活の知恵、一般常識などを教わったり、食事の用意をしてもらい、職員は家族の一員として生活をするようにしている。職員が利用者に相談事をして、聞いてもらうことが多くある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会の時などに、職員は家族のように付き合うことを話し、家族の方とも悩みを分かちあい、共感するように話しかけ、働きかけている。行事などの時は、積極的に手伝いをしてくれたり、手料理を持参してくれたりする。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人や家族の生活歴などを把握し、よりよい関係が築いていけるように支援している。不穏に陥りやすい入居者などは、家族の面会の機会を多くしてもらったり、一緒に外出することにより精神的に安定している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や近所の方の面会などは、続くようにしてもらっている。墓参りや行きつけの場所などを、本人や家族から聞き、関係が途切れないようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が助け合ったり、利用者の悩みを聞いたりして、利用者同士が支え合い、暮らしていけるように職員がさりげなく援助を行っている。散歩時、車椅子を押してもらったり、興奮した入居者の話を聞き、なだめてくれたりする場面がよく見られる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後、他施設に情報提供等を積極的に行い、家族の方や本人にいつでも相談を受けたり、遊びに来られるように話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の思いや暮らし方の希望、意向を聞き、利用者本人の視点に立ち、職員全員で意見交換し合い、取り組んでいくようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に、本人の生活歴や暮らしぶり等を本人や家族などから聞くようにしている。また、日々の生活の中で会話したり、発見することがあれば、職員全員に申し送り、本人が安心して暮らせるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員が利用者一人ひとりのできる力、わかる力などを常に意識して対応し、できることが暮らしの中で増えていくように支援している。できた時などは、感謝の気持ちを表したり、一緒に喜ぶなどして、本人の意欲の向上に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がその人らしく暮らすために、家族や関係者と話をしながら、介護計画を作るようにしている。本人のできることに目を向けた介護計画書にしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書は期間にとらわれず、現場で実践できる介護計画になるようにしている。変化に応じて、本人や家族の意向を聞き、臨機応変に見直しをするようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や本人の言った言葉、ケアの実践、結果、気づきなどを個別の記録に記入し、本人の思っていること等を職員全員で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の意向、要望がある時は、職員全員で話し合い、その時々に必要な支援の仕方を、本人や家族と十分に話しながら対応している。職員が継続的に支えることを大切にしたい支援となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	安全でより豊かな暮らしが送れるように、民生委員や教育機関、警察、消防などに協力しながら、支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人をよく知る地域のケアマネジャーなどの訪問はあるが、市町独自の介護保険以外のサービスを使えるようにはしていない。	○	本人の意向等があれば、サービス事業者と話し合い、他のサービスを利用したい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところは問題となることはないが、事業者のみでは解決できない困難な状況等に応じて、地域包括支援センターと連携を図りながら、個別の支援を行っていく。地域包括支援センターと協働しながら、認知症の人を地域で支えるための地域資源ネットワークの拡充に努める。	○	今後、総合的な援助を地域包括支援センターと協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が、馴染みの医師や希望する医師による医療を、継続的に受けられるように支援している。事業所の協力病院の医師をかかりつけ医とする場合には、本人と家族の同意と納得を得て、かかりつけ医になってもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の人の医療に熱心で、適切な指示や助言をしてくれる医師がおり、信頼関係を築きながら、相談に応じてもらっている。利用者の相談事も聞いてもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームに看護職員が常勤しており、気軽に相談しながら、健康管理や医療的な支援を行っている。また、2週間に一度の往診時に、看護師の方が来られ、相談に乗ってもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時に安心して過ごせるように、家族と相談しながら、医療機関に本人の情報提供を行い、ケアについての話し合いをするようにしている。退院計画を病院関係者や本人、家族と話し合い、早期退院ができるように支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、入居の段階から話をしたり、かかりつけ医、家族と話し合いながら、その都度、本人に家族の意向を確認し、対応方針の共有を図っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者に対して、安心と安全を確保し、よりよく暮らせるために可能なこと、困難なこと、不安なことを職員全員で話し合い、家族の協力を得ながら、医療関係者と連携を図り、チームで支援していくようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先の関係者に対して、本人の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え、環境や暮らし方が継続できるように働きかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの保護を徹底して、職員全員で個人情報の取り扱いについて、秘密保持の原則を徹底するよう話し合っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が思いや希望が表せるように働きかけ、利用者が言葉では十分に意思表示ができない場合であっても、表情などを注意深く観察しながら、本人の希望や好みを把握している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、本人がしたいと思っていることを聞き、日々の暮らしがその人らしいものとなるように支援している。また、本人の希望や好みに合わせた援助を行うようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の好みや意向、持っている力に応じ、髪型や洋服の身だしなみ、おしゃれは、個別に支援するようにしている。自分の行きたい美容院などがある利用者には、望む店に行けるように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の一連の作業を利用者と共に職員が行い、一緒に食事を味わいながら、楽しい食卓になるようにしている。焼きそば等は、男性入居者が焼き、男性も活躍できる場面を作るようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコやおやつ、飲み物などを一人ひとりの希望を聞きながら、不満とならないように、本人の嗜好品などは続けられるように支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の一人ひとりのパターンを把握して、尿意や便意がなくなるようにトイレで排泄を行い、気持ちよく排泄ができるように支援している。同姓職員の介助を希望する利用者には、同姓職員が介助し、羞恥心を大切にしているようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴が楽しめるように支援している。利用者に無理強いをすることなく、本人が入りたくなる時間まで待ち、本人がくつろいで入浴できるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に合わせて、安心して休息ができたり、安眠できるように、生活の過ごし方などを職員や医師と検討しながら、支援するようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴などを把握し、食事作りや食器洗い、洗濯干し、洗濯たたみ、草抜きなどの役割が持て、自分の居場所ができるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で小遣い程度のお金の管理をして、買物に出かけたり、ジュースを買いに行くなどしている。自分でお金を持ちたいという利用者には、家族と十分に話しあい、持ってもらえるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	帰宅願望の強い利用者や、何もしないと居眠りをしてしまう利用者などは、気分転換にドライブに出かけたりしている。散歩などを日課とするようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の行きたい所などを聞き、出かけるようにしている。また、家族の協力もあり、墓参りや自宅の仏壇参りに行ったりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけたいという時には、電話をかけている。心配ごと等を家族に伝え、安心したりする利用者もいる。年賀状や暑中見舞い、手紙などが届くと、本人に渡し、返事を書く利用者もいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人の馴染みの人たちが気軽に尋ねやすく、居心地よく過ごせるように、職員は環境づくりに気をつけ、面会時には、お茶を利用者と共に飲んでもらったりしている。また、訪問時間は制限することなく、家族などの希望に合わせた対応としている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険法指定基準における禁止となる具体的な行為等を勉強会で説明し、正しく理解するようにしている。身体拘束を行わないケアを職員全員で考え、対応の仕方などを検討している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵をかけることなく過ごし、心理的な不安、閉鎖感をなくし、家族も安心して訪問できるようにしている。利用者への安全性を確保するため、外に出たとき等は、さりげなく後からついて行くようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜を通して、利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮するようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品に対しては、保管場所を決めている。利用者の状態に合わせ、管理の方法などを職員で話し合い、取り決めをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対策委員会を作っており、事故を未然に防ぐための方策を検討している。転倒を起こしやすい人には、常に見守りを行っている。窒息や誤嚥などが起きないように、食事中には職員が見守りながら食べてもらっている。火災が起きないように、火元の確認を毎日行い、安全に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変時や事故発生時に備え、応急手当の方法や初期対応に関して、定期的に訓練をするようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練をしており、消火器の使い方や夜間の搬送方法を習ったりしている。地域の方にも協力が得られるように、日頃からお願いをしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに予測されるリスクについて、家族に説明をしており、家族とは十分に話し、対策を考えるようにしている。また、身体拘束は行わない方針であることを説明し、対応するようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを行い、血圧や体温など、気になる利用者には申し送りを行い、体調管理ができるようにしている。また、顔色、食欲、排泄、いつもより元気がない等の小さな異変も報告し、異常について早期発見、報告して、主治医の指示を受けたり、病院に受診したり、往診に来てもらっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりの服薬の用法や用量を理解しており、飲み忘れや誤薬がないように、一人ひとりの薬に名前を書き、食事ごとに分け、飲む前に、名前、時間を確認し、飲んでもらっている。心身上の変化や状態は、家族や主治医に情報提供を行っている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の管理を職員が行い、便秘とにならないような方法を考え、腹部マッサージや体操、軽い運動を習慣づけることにより、排便がスムーズになるようにしている。また、便秘になりやすい人には水分を多く、摂取してもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔清潔をしてもらうように支援している。一人ひとりの口腔状態や力に応じた対応をしており、習慣となるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量、食べた物、残したもの等の記録を取るようにして、栄養状態を把握しており、月2回体重測定を行っている。吸収率の悪い方などは、食事だけでは十分に栄養が取れないので、主治医や家族と相談し、栄養補助食品を飲んでもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を実施している。感染症予防について勉強会をしており、職員全員が感染症についての知識を持ち、予防に努めている。毎日の手洗いは、利用者、職員とも積極的に実行している。また、外出後はうがい、手洗いの習慣をつけるようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器や調理器具の消毒、布巾などを消毒するようにしている。新鮮で安全な食材を使用し、食中毒の勉強会を行い、職員全員で知識を持ち、管理するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りなどに花を植えたり、建物は木造のため、利用者や家族、近隣の方が安心して出入りできる空間作りに心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造なども考えて作られており、不快な音や光が入らないようになっている。生活感や季節感を採り入れ、利用者の方が居心地よく過ごせるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分が広く、ソファーやテーブル、たたみ、中庭など、気に入ったもの同士が思い思いに過ごせる居場所作りをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みの物を持って来てもらうようにしている。本人が居心地よく過ごせるように工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	事業所内の気になる匂いがないようにしている。利用者にとって、快適な温度、湿度が保てるように、こまめに管理している。また、外気温と大きな差がないように配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように、空間を広くし、車椅子でも自分で自由に移動できたり、手すりをホーム内、トイレ、浴室につけており、安全に自立した生活が送れるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の認識間違いなどが見られるときは、混乱などが起こらないように、柱に目印をつけたり、廊下に電気をつけるなどの配慮をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りや中庭を使い、花を植えたり、水やり、洗濯物や日向ぼっこなど、玄関先や中庭を活用し、利用者が活動できるように活かしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームは木造平屋建てであり、屋内は、木を主体とした明るい温かな家庭的な作りとなっている。玄関の内外には、常に季節の花などを植え、季節感が味わえるようにしている。また、中庭があるので開放感があり、利用者が自由に出入りできるようにしている。利用者と共に暮らす生活を考え、職員も家族の一員として関わりを持つようにしている。また、経営者も介護に参加し、困っていること、職員の悩みなどをよく理解してくれる。近隣との関係作りも積極的に行っており、馴染みの関係ができてきている。利用者と共に食事を作ったり、後片づけをしてもらったり、生活の中で、利用者の活躍できる場所を増やすように努力している。